

三輪 孝之さん
Takayuki Miwaミワ タカユキ / 甲佐町副町長。
現在の自宅では妻、猫2匹の4
人(?)暮らし。

〔甲佐町副町長〕

「生まれ育ち」「学び働き」
「住んで幸せ」三つを輪につなげたい

「生まれて住んで学んで働いてよかった」と思ってもらえるまちづくりに貢献したい」と話すのは、7月6日に本町の副町長に就任した三輪孝之さん。37年間勤めた熊本

県庁を同月5日に退職し、甲佐町副町長となった。宇土市生まれの60歳で、大学では法律を専攻。地元熊本への愛着から県庁マンを志した。県では、総務、環境部門

などで要職を歴任。最後は商工労働部長として、TSMCなどの企業誘致に携わってきた。平成26・27年度には、上益城地域振興局次長として幾度も本町を訪れている。本町の地域づくり活動などの取り組みを評価する木村知事から「甲佐町の力になってほしい」と依頼され、上益城での勤務歴から「大変ありが

たい話」と快諾した。

県に対し派遣を依頼した甲斐町長も「豊富な行政経験とこれまで培ってきた知識を職員育成・指導や企業誘致に発揮してほしい」と期待を寄せる。

そんな三輪さんに本町の魅力について尋ねると「素敵な店やキャンプ場がいくつもあり、自然が豊か。さらに渋滞も少ない。住環境に優れた町」という印象を持っている」と返ってきた。

そして、「町長の考えを尊重して、町の強みを生かした移住定住政策に力を入れたい。大きくなくてもよいので自然に優しい企業に来てもらえるよう努力したい」と抱負を続けた。

8月には、商店街に近い空き家に移住し、本町住民となる。「自宅を多くの人たちと意見を交換するための足場とし、それを町政に生かしていきたい。町外の人々を招いて、町の魅力をアピールしていきたい」。そのための「交流拠点」とするらしい。

趣味はスポーツ観戦だそう

だが、ひいきのチームがあるわけではない。お酒と猫が好きで、人と話すのが好き。「休日には、町内外のイベントに積極的に参加して、町づくりのヒントを探したい」とアクティブな一面も見せる。

現在、本町地域振興課で課長補佐を務める県派遣職員の田原真希さんは、県庁時代の三輪さんを知る一人。「強いリーダーシップを持ち合わせながらも、分け隔てなく職員の意見に耳を傾けてくれる上司でした。県庁内だけでなく、たくさんの人に慕われています」と三輪さんの人となりを話す。

県職員時代、内外に多くの人脈を作り、企業誘致などの大仕事を成し遂げてきた三輪さん。県庁での仕事は「やれることはやった」と考えているそうである。

「甲佐町」という新たなステージでのミッションは、住民との交流から始まる。「生まれ育ち」「学び働き」「住んで幸せ」三つの輪がつながる甲佐町に向かって……。